

末広喜代一教授退職記念号の発刊にあたって

末広喜代一先生は、今春3月末をもってご定年となられ、香川大学をご退職されることになりました。先生は1947年に大阪市にお生まれになり、1973年に大阪市立大学大学院理学研究科博士課程を中途退学で、香川大学教育学部に着任されました。以来39年間生物学教室に在って、ご専門の植物生態学の研究に情熱を傾けられるとともに、多くの学生の指導にあたってられました。

先生は香川大学教育学部へ着任されるとともに香川生物学会に入会され、理事あるいは常任理事として学会の活動を支え、2007年（平成19年）に香川生物学会会長に就任されました。

その間、塩生植物やタンポポなどを材料に、植物の種間競争に対する各種成長要因の影響を野外調査や栽培実験によって研究されてられました。一連の研究を学位論文としてとりまとめられ、1987年に大阪市立大学より理学博士の学位を授与されました。またその後、常緑広葉樹の葉の寿命の研究をきっかけに、樹木の耐陰性に関する研究も行われました。

先生は、ご自分の研究のほかに、香川県の自然保護関係の調査にも携わってられました。1980年より8年間にわたって行われた香川県自然環境保全指標策定調査や、1999年から2004年に行われた香川県の希少野生生物に関するレッドデータブック作成のための作業部会では、現地調査だけでなく、調査全体のとりまとめ役として、その重責を果たされました。

この度、先生の多年のご功績を讃えると共に感謝の意を表すために、記念論文集の発刊を企画しましたところ、多くの方々が論文を投稿され、本号を出版することができました。皆様方のご協力に対して記念事業会として心よりお礼申し上げます。

2012年3月18日

末広喜代一先生退職記念事業会